

平和宣言で引用した被爆体験談を書かれた方のコメント等

1 当時 16 歳の女性（河内 政子 86 歳 広島市在住）

- ◎ 原爆で家族を失い傷ついたことを思い出すのが嫌で、長い間、被爆体験を語る事ができませんでした。しかし、被爆から 50 年経ったときに、戦争を知らない世代が増えていくことを実感し、被爆体験を語り始めました。
- ◎ 原爆を生き残った者として、亡くなられた多くの方々の無念な思いを伝えるべく、世界平和のためにと思い被爆体験を語っています。この度、自分の書いた体験談が平和宣言に盛り込まれることになり、とても嬉しく思います。
- ◎ 戦争を知らない子どもたちの前で被爆体験を語る際には、この子どもたちが一生を通して平和な世界で生きていければといつも願っています。多くの人々に広島に来ていただき、被爆者の体験や被爆の状況をしっかりと胸に刻んでほしいと思います。

※平和宣言の中の引用は、平成 25 年の平和宣言作成の際に御応募いただいたもの

2 当時 12 歳の男性（三浦 幹雄 82 歳 広島市在住）

- ◎ 平和への第一歩は自分や他人を愛すること、そして、生命を大切にすることから始まります。
- ◎ 原爆投下から 70 年が経ち、政治家や親を含めて戦争を体験していない人が増えています。そういった多くの人々に、被爆や戦争の体験をしっかりと勉強してほしいと思います。
- ◎ 私たちが体験したことをこれからも継承していくためには、一人一人が資料を「見て」勉強するだけでなく、被爆者をはじめとした大人が、言葉を通して次の世代に「話していく」ことが必要だと思います。
- ◎ また、核兵器を持っている国も持っていない国も、お互いが理解し合い、核兵器廃絶に向けて努力することが大切だと思います。

※平和宣言の中の引用は、平成 26 年の平和宣言作成の際に御応募いただいたもの

(敬称略、平和宣言の記載順)